

## 民主市民クラブ

三葛 敦志

財政難の折、  
市民のための発想の転換を

○道路特定財源の一般財源化・暫定税率廃止について、国の言うがままに道路を造り続けるのではなく、各自治体が創意工夫をして「善政競争」をやるべきだ。

市長) 国会での与野党の議論を見守りたい。

○法人市民税が前年度比マイナス8.1%と大幅な減収。やがては個人市民税にも響く可能性があり、財政の見通しは明るくない。

市長) 景気の伸びが弱くなってきている。

○公の施設の耐震化について、施設全体で検討する必要がある。乳幼児の安全考えれば保育園を真っ先にやるべき、とこれまでも求めてきた。

市長) いずれも緊急要する。計画立て進める。

○自治基本条例の「慎重審議求める」とあるが、本来は「一日も早い成立」を求めるのでは。

市長) 多くの皆さんの賛同を、という思い。

○「生み、育てられる社会環境」の充実のためにも、待機児解消は重要な施策だ。

市長) 待機児は来年度も多い。何とかしたい。

○生活保護制度の具体的施策について。

市長) 稼働能力のある方への就労促進や母子世帯の自立支援など行っている。

○(仮称)地下水湧水保全条例について。

市長) 議会の要望もあり、課題を整理中。

○史跡公園整備について、公有化を進めた後にはどのようにするつもりか。

市長) 保存・整備・活用そして市民生活への配慮が必要。まちへの愛着を持ってもらいたい。

○ぶんバス特別会計の新設は評価したい。

市長) 透明性を高め、今後の判断材料としたい。

○ごみの有料化について、施政方針でもその方向だと述べているが、踏み切るのかどうか。

市長) 集合住宅対策等が先。時期明言できず。

○庁舎建設アンケートの前に、市民に対して十分かつ適切な情報開示を。

市長) 客観的データを示したい。

○3・2・8号線により学区の分断もある。これを機に学校統廃合も含めて検討すべき。

教育長) 教育委員会としては未検討。

○「調達に関する基本指針」において市内業者の育成を語っているが、不十分だ。

市長) 透明性・公平性を前提に考えたい。

○民間委託について、行政がやってきたから行政でやるとするのではない発想が必要。

市長) 市民サービス向上と経費面で更に検討。

## 市民サイド

森 喜行

不透明な経済状況に  
質実な行政運営を求める

平成20年度施政方針を、「総花的で確固たる市長の意志が感じられない」と断じたうえで、以下のような質問や要望を行いました。

●地球は自治体という点の集合体だが、市として温暖化防止策をどう取るのかを問い、国分寺駅北口開発や新庁舎建設に省エネ視点のフィルターをかけるべきだと注文しました。

●市庁舎建設に関して。場所選定も含めて、最大限の市民参加を促し、フェアで真に民主的な方法で進めるよう求めました。

●平成21年度開園予定の恋ヶ窪保育園をはじめ、進めようとする保育園の民営化に対して懸念を表明し、公設公営の役割を改めて検証するよう求めました。

●妊婦健康診査の公費負担の回数を増やしたことを評価したうえで、市内に産院が皆無であることの異常を指摘し、方策を問いました。

●社会保障費が削られるなか、安心確保と高齢者の就労支援についての考え方を伺いました。

●エックス山の保全・調査について、調査会社等へのまる投げではなく、市民団体との協働で行うよう求めました。

●都市計画道路国3・4・6号線について。西武国分寺線との立体交差で生じる近隣の交通弱者の難儀に対してどう考えるのか、聞きました。

●ごみ問題では、有料化は必ずしも減量化に繋がらないと指摘し、戸別収集で再び増え始めたごみの徹底的な検証を求めました。

●学校図書館における図書司書の配置を評価したうえで、更なる拡充を求めました。

●食育についても栄養教諭の配置等、強化の方向性を示すよう求めました。

●いずみホールや体育施設が指定管理者に引き継がれることに関して、市民本位の事業の実践を評価する市民参加型の評価システムが必要ではないかと伺いました。

●公民館事業に関して。今、必要なのは学習を経て、成熟したグループを実践的な社会活動へ橋渡しするバックアップシステムをつくることだと主張し、見解を伺いました。

●市内商工業等の活性化策の充実と、派遣労働者への相談等、サポート策を求めました。

●最後に実質公債費比率や起債残高など、硬直した財政状況に鑑み、市長に対して、慎重のうえにも慎重な財政運営を行うよう切望しました。

## 国分寺・生活者ネットワーク

梁川 律子

従前からの脱却  
市民に出向く発想で事業を

市政に対する市長の熱意が感じられない  
問) 市長が就任以来掲げてきた「共生、参加、創造」の具現化が施政方針に現れていない。  
市長) 普及してきたと思い記載しなかったが、その理念は変わっていない。

問) 長期総合計画の1年目の19年度評価は。

市長) 一歩ずつ実現に向けて進みつつある。

問) 安易な判断による事業の切捨てや、惰性で事業の継続を行わなかったか。

市長) 個々の事業についての反省点はある。

ひかり保育園の耐震診断結果の情報共有の遅れ、その後の仮園舎への移転、さらに民設民営化の突然な表明は市長のライジング

問) 保育園に関する市長の公約が民営化であることは承知しているが、市全体の保育構想を策定してからの判断をするべき。施政方針からの撤回を求める。

市長) 中・長期的な展望が欠けていた点は反省する。保護者や市民に説明し、理解を得たい。

行政の既存施設は今後の人口推計、市民ニーズ等を勘案し、有効活用する施策が必要がある。

問) スクラップビルドから転換し、ストックマネジメント計画作成の施設台帳整備を促進せよ。

市長) 20年度は促進させる

## 市民自治推進は参加と協働が基本

問) 行政職員の研修が足りない。坐学だけではなく、市民活動へ出向いて本物の協働を。

市長) 職員が現場へ出向く研修を取り入れる。

分権と言えども、税源移譲が不十分で補助金頼みの財政状況。有効活用できる庁内体制を

問) 各課にまたがる補助金が多々ある。「各課連携」ができていない。補助金を統括する組織が必要であるとする。

市長) 今後、十分に検討したい。

## 環境教育・学習は多くの市民参加で

問) 身近な環境課題であるごみ問題を保護者と共に学習する機会と捉え、教育現場で。

教育長) 各校の実態をつかみ、検討したい。

問) かねてから提案してきた湧水・地下水保全条例制定を市政方針に掲げたことは評価する。

市長) 早急に具体的なスケジュールを出す。

問) 高齢者の在宅福祉は訪問による医療が拡大されないと市民の不安は払拭されない。訪問診療の拡大を医師会へ働きかけよ。

市長) 医師会との話し合いのテーマとしたい。

を持ち続けられるように」とあるように、現在はその裏返しだ。今は行動と結果を出せ。

木村) 北口再開発事業費は上昇するのか。

市長) 正確な試算ではないが上昇する。

木村) そうであれば予算書、施政方針と同時に25年度までの財政フレームを示すべきだった。

※その後、担当委員会で73億円増の事業費が示され、木村の、政策の優先順位を明確にせよとの質問に、北口再開発が第一優先課題であると答弁、その後庁舎建替の延伸が示されました。

## 無党派

甲斐 よしと

大借金連発計画は  
次世代へのツケ回しだ！

私は再三、北口再開発・新庁舎平成25年完成・3・4・6号線(日立中研通り)西武国分寺線立体交差に30億円等、来年度からの大借金開始計画に異論を唱えてきた。現下、毎年新成人は過去最低、昨年出生児は、その新成人の半分という時代で、公共インフラの長期借金で次世代への後年度負担は従来とは違い、その一人当たりの負担は何倍も重いものとなり、従来の後年度負担の論理は成立しない。財源的にも困難極まりないと申し上げたが、市長は全く変更する意志のない答弁に終止した。

(注) 後日、予算審議の中、新庁舎建設を5年間でスピードアップすることに関して、異例の「施政方針演説」の修正がなされました。

## 無党派

木村 徳

財政の裏づけを  
明確にした方針を！！

木村) 市長は七百数十名の職員(=市長の補助職員)に信頼されているという認識か。

市長) 信頼が高まるよう努力していきたい。

木村) 実態は市長のリーダーシップが発揮されておらず、施政方針にも「高いモチベーション

## 「日曜議会」を開催

今定例会の初日(2月22日)に、市長から施政方針が発表され、それに対する各会派からの代表質問を2月24日(日)に行いました。

日曜日ということで、平日よりも多数の傍聴者の方にお集まりいただきました(内訳は右記のとおり)。

今後も一人でも多くの方に傍聴していただけるよう努力し、開かれた議会を目指します。

傍聴者人数年代別集計			
20歳未満	1人	50歳代	12人
20歳代	2人	60歳代	18人
30歳代	3人	70歳代以上	11人
40歳代	9人	年齢不明	5人
合計			61人